２０１９年度

年会報

公益社団法人一宮青年青年会議所

「一年間を振り返って」

理事長　眞野尚人

2019年を振り返るに当り理事長所信を読み返し、改めて思う事はこの地域・組織を担う若者は残せたのかどうかという一点のみです。この一年、メンバーの皆さんに例会・事業・各種大会・出向活動にと色々な事に挑戦していただきました。何を感じ、何を持ち帰ったでしょうか？楽しかった事、辛かった事、うまくできた事、失敗した事全てが一年前には経験していなかった事であり、全てがメンバー皆様の学びと成長に繋がったのだと確信しています。

2016年度山本会頭の言葉に「毎年受ける役職も最初からできると思ってやった事は無いが、自分がやると決めたからやって来れた」という言葉がありました。全く別世界の人だと思っていた会頭まで登る人でもその繰り返しなのかというのは私の中では衝撃的なフレーズでした。今年の理事長職がやり切れたのもこの言葉が支えになったからだと思います。仕事、家庭、プライベート、趣味、お金、時間…JCをやれない理由を並べたら山のようにあると思います。結局は覚悟の問題、やり方は人それぞれ工夫すれば良いのです。一宮だけではなく全国で会員数は減っているのは間違いない事実ですが、それでも元気のあるLOM、地域は存在している訳で、同じ世代に凄い人達がいる事も事実です。一宮市、西尾張エリアが他の地域に比べ特別不利な地域では無いはずです。この地域のために、東京に住む人、名古屋に住んでいる人が行動してくれますか？大企業を誘致したらこのまちは良くなるのでしょうか？この地域で住み暮らす私たち以外このまちは変えられません。JCに出会っていなかったらこの発想自体無かったのかも知れません。この地域には間違いなく新しい地域課題が増えています。高齢者の増加、空き家、更地の増加、田畑には売り地の看板が目立ち、外国籍の住民も増加しています。

新しい問題に対してJCが出来る事が必ずあります。次代を担う皆さんには若者の新しい発想と行動力でJC運動を展開していって欲しいと思います。

気付けば、2019年度正副構成メンバーは2016年度に私が担当した渉外委員会のメンバーで構成されていました。特に意図していた訳ではありませんが、過去の点が線に繋がり全ての事に意味があり、無駄な事など無いのだという事を改めて感じた年でもありました。共に一年間活動を支えていただいた正副構成メンバーであります光樂朋尚君、三嶋啓一郎君、青山直生君、大島航君、本当にありがとうございました。

結びとなりますが、2020年度現役メンバーの更なる成長と飛躍を期待し来る70周年に向けてLOMが更なる発展を遂げる事を祈念し第67代西岡理事長へとバトンを渡したいと思います。一宮青年会議所の理事長は、LOM、西尾６JCの親、愛知BC協議会発足LOM、日本ではNO.8と様々な立場の顔があり、その場その場で大変多くの出逢いと学びを得ることができる大変重責ではありますがやり甲斐のある役職です。一宮青年会議所に入会したからには是非目指していただきたいと思います。最後にまだ見ぬ未来の理事長候補者に向けエールを送らせていただき私の最後の挨拶とさせていただきます。

一年間本当にありがとうございました。

「一年間を振り返って」

副理事長　青山直生

2019年度副理事長兼ひと創り室室長という機会をいただきました眞野理事長には心より感謝申し上げます。そして、このような大役を1年4ヶ月間務め上げるにあたって、平田委員長を中心とする青少年共育委員会メンバーと伊藤委員長を中心とする交流・アカデミー委員会メンバーの協力があったからこそだと心より感謝しております。

青少年共育委員会と交流・アカデミー委員会の大きな2委員会の担当副理事長ということで年度当初は私自身の時間を作ることに苦慮していましたが、両委員長が時間調整や各事業への送迎など私の状況に配慮した委員会運営を行っていただいたお陰もあって年度の中盤以降は円滑な運営ができるようになっていました。この点に関しても両委員長には感謝しています。私自身は青少年事業やアカデミー事業は今までの青年会議所活動では経験を積んでおらず的確な指導ができたかは今も分かりません。しかし、本年度最終年度であった私自身のテーマとして一宮青年会議所の次世代のために尽くす覚悟で役職を進めていました。その意味ではひと創り室内総勢32名という多くのメンバーと関わることできたこと、そして、その中から平田委員長、伊藤委員長、髙月委員、浅野副委員長、丸目委員と言った次年度の役員を担ってくれるメンバーが室内から創出してくれたことに関しては心の底からうれしく思っています。

室長として委員会の運営について指導、監督することに注力してきました。そして、両委員長をはじめとする委員会では一定の安定感を持って活動してくれたと感じています。しかし、副理事長として組織全体の運営に目を向けることが十分にできなかったことは多くの反省点が残ります。本年度拡大委員会を廃止して正副が中心となって拡大を進めることについて、そして、まち創り委員会や総務委員会で他の担当副理事長や委員長により適切な提言や行動があったのではないかと反省しています。組織のすべてを円滑に遂行することこそが正副の役目なのだと感じました。

最後に、最終年度に一緒に活動してくれた多くメンバーにそして多くの経験をいただいた一宮青年会議所に心から感謝します。本当にありがとうございました。

「一年間を振り返って」

副理事長　大島航

1年間を振り返ってみて自分に点数をつけるのであれば、10点ぐらいであろう。今一宮青年会議所は存亡の危機に瀕している。あいつの為に俺はやる、ギブアンドテイクの精神は失われ、利己的な話ばかりが耳に入ってくる。一宮青年会議所が築いてきた歴史や伝統は失われてしまったのであろうか。もしも2019年にその犯人捜しをするのであれば、それは専務理事である私であろう。候補者段階で思い描いていた自主性を重んずる組織運営は中々難しく、私が現場の最高責任者として組織全体に、あるいは各委員会

それぞれに目を配り、副理事長や委員長やスタッフを導かなければいけなかった。あるいはもっと役を演じ、嫌われ役となり組織全体を引き締めなければいけなかった。営利目的の企業活動や雇用関係とは違う組織体の中において人を動かす、人に動いてもらうということの難しさを感じ続けた1年間だった。なぜあいつはやらないんだ、なぜこんなことになったんだ、と他責の念ばかりが浮かんだ日もあったが、2019年も終わりを迎える今、思い返してみればあの時こうしていればよかった、もう少しできることがあった、と自責の念に駆られる。このままの思い出漫然と2020年を過ごしては価値のない1年になってしまうので、この思いを社業家業JC活動に繋げていきたいと思う。最後になりましたが、こんな私についてきてくれた事務局と渉外委員会の皆様、本当にありがとうございました。苦しくも楽しく学び多き1年でした。そして私に最も重要であるこの任を与えてくださり、1年間ともに歩んでくださった眞野理事長に多大なる感謝を申し上げます。眞野理事長のラストイヤーにご一緒できて素晴らしい1年でした。

「一年間を振り返って」

副理事長　光樂 朋尚

2019年度眞野理事長のもと副理事長兼まち創り室長という大役を務めさせていただきましたことに感謝申し上げます。また1年間色々と激流のあった中、何とか一年間無事に乗り越え、この大役をやり遂げることができたことに胸をなでおろしているというのが正直な想いですこの1年、まち創りということに関して全く無知な私に対しまして、様々な面でご協力いただきました眞野理事長をはじめ、正副理事長、理事会構成メンバー、多くのメンバーの皆様のお蔭をもちまして無事に2019年度を例会も欠けることなく全ての事業をすることができましたことに心より感謝、御礼申し上げます。

まち創り室長として、まち創り委員会を担当させていただきました。まちの委員会というものを初めて経験させていただいたため、何をどのようにしていけば良いのか、何を期待されているのかが分からず、不安な思いでスタートしました。最初に委員長を受けていただいた大倉委員長には、初めてのことで、大変苦労と不安を与えてしまったことに対して大変申し訳なく思っております。そして、私がもっと委員会でリーダシップを取っていれば良かったと反省しております。また、途中から委員長を引き受けていただいた後任の矢田委員長に於かれましては、基本方針も事業計画も自分が作成したものでなく、非常にボリューミーな事業・例会であるのに、快く委員長職を引き受けていただき感謝しかございません。本当にありがとうございました。

本年、まち創り委員会はSNS（Instagram）を使用し、一宮青年会議所初の賞金を出した例会（いちスタ　いちのみやインスタコンテスト）を開催させていただきました。一宮の新たな魅力を市民自ら発見して発信し、まちを愛するこころを育むことをさせていただきました。期間が短い中で多くの市民の方に参加していただきました。多くの市民に参加していただき社会にインパクトを与えたという点においては一定の成果を得たのではないかと考えております。また最近のトレンドであるフェスやマルシェによって一宮市の魅力を伝え、一宮の良さを発信していくこともしました。メンバーや関係者の皆様には事前の準備不足によって多大なるご迷惑・ご心配をお掛けしました。それでも市民に対してまちを愛するこころを育むことができたのではないかと感じております。

最後に重ねてにはなりますが、私に副理事長兼まち創り室長の職をお預け頂きました眞野理事長をはじめお支えいただきましたメンバーの皆様に感謝申し上げます。一年間本当にありがとうございました。

「一年間を振り返って」

副理事長　三嶋啓一郎

まずは、副理事長として2019年一年間対応させていただきましてありがとうございました。お世話になりましたメンバーの方に感謝申し上げます。

副理事長になったら、こうしようああしようといろいろと思案し、副理事長の担いをお受けしましたが、思った通りに進んだことは何一つなく、うまく行かなかないことばかりでした。

委員長の状況等いろいろとありましたが、自らが動かなければならない状況になってしまい、それをうまくこなすことができず、鬱々とした日々を過ごすことも多くありました。

皆様には多大なご迷惑をおかけしたことを深くお詫びしたいと思います。

人を動かすことの難しさを痛感しました。どうすれば良いのか、悩む日々も多くありました。これはまだ最適な答えは出ていません。ＪＣ活動で学んだことを今後の生かしていきたいと思います。

2019年は正副のメンバーに本当に助けられました。このメンバーで良かったと心から思います。

眞野理事長には、温かく見守っていただきました。一緒に県庁に行っていただきまして公益社団法人の3要件を満たすための協議を一緒にしていただきました。おかげさまで、3要件のうち公益事業比率だけでなく、遊休資産割合、収支相償についても満たすことができるようになりました。これは今後も引き継いでいきたいと思います。

3人の副理事長にもいろいろとフォローいただきました。大島専務には、私の責任で問題が発生した時も自分責任だけ言っていただき、一緒にフォローいただきましたことも多数ありました。青山副理事長、光樂副理事長も自分の公益事業が大変だったのにも関わらずいろいろと助言いただきました。

2019年の正副メンバーとはこれからも仲良くしていただきたいと思います。
最後となりましたが、今後副理事長となるかたは、私のような副理事長にならず、うまく人を動かし、ＪＣ活動を楽しめるようになっていただきたいと思います。

「一年間を振り返って」

事務局長　東賢吾

まず始めに、3年半振りに一宮青年会議所に復帰させていただきありがとうございます。また私に、事務局長という成長の場を頂けましたことを感謝申し上げるとともに、復帰間もない私を受け入れてくれたメンバーの皆様本当にありがとうございました。そして、眞野理事長を始めとする理事会構成メンバーの皆様にはいろいろお願いや、助けを頂き改めて心より感謝申し上げます。

正直、3年半のブランクがあり不安しかありませんでした。ですが、出会って17年も経つ眞野理事長の元ならと思い受けさせていただきました。怒涛の1年4か月でした。

理事会が滞りなく開催できたのはひとえに佐藤事務局次長のおかげです。大変申し訳ないですが、徹底的に事務局次長としての役割をやっていただきました。きついこともたくさん言ったと思いますが、最後までついてきていただきありがとうございました。

私自身を振り返ると反省や至らぬ点が多々ありました。理事の辞任や交代など、支えるべき私の力が足りない結果だと思います。

この1年、眞野理事長と大島専務には大変お世話になりました。各種大会、事業など常にともに行動させていただき勉強をたくさんできました。たくさん頼りにさせていただきましたし、3役としていいコミュニケーションが取れていたように思います。また改めて尊敬するとともに素敵な理事長のもと事務局長ができたことを誇らしく思います。色々学びを頂きありがとうございました。

また同期入会の大島専務とは、朝方や、夜中までいろいろ世話になりました。

理事初経験が事務局長ということで、大変難しく、悩みましたが、JCライフのなかでとても貴重な時間をすごせました。委員会を持たないことで他の理事とは違った景色で例会や各種大会に臨むことができました。

この経験を次年度以降のJCライフに生かすとともに、これから入ってくるメンバーに引き継いでいけるよう活動に邁進していきたいと思います。本当にありがとうございました。

「一年間を振り返って」

渉外委員会委員長　小森香奈

2019年度、渉外委員会委員長という大役を一年間務めさせていただきました。
JC歴の短い私にこのような機会をいただきまして、眞野理事長をはじめとする一宮青年会議所メンバーの皆様に深く感謝申し上げます。
渉外委員長という大役へのお声掛けをしてくださいました大島担当副理事長、未熟な私を1年間支えてくださった渉外委員会メンバー、沢山のご意見ご指摘をしてくださった理事構成メンバーの皆様、多くの成長の機会を与えていただきました卒業年度である山岡監事、昨年度の渉外経験を元に、ご指導ご鞭撻していただきました次年度理事長であられます西岡監事、会えば声を掛けてくださる一宮青年会議所メンバーの皆様、多くの方に助けられたことで委員長職を全うすることが出来ました。本当に感謝してもしきれません。
本年度、渉外委員会は「目配り・気配り・心配り」を合言葉に活動してまいりました。ご参加してくださる会員の皆様に楽しんでいただきながら、学びを得ていただくために合言葉である三配りを心掛け委員会メンバーと共に活動できたことは良き思い出となりました。

また、1月の京都会議を出発点に、とうかい号事業、東海フォーラム2019、サマーコンファレンス2019、江南大会、富山大会、11月例会と多くの事業や他LOMと関わることが出来ました。
11月例会においては、本年度25名と多くの出向者を輩出していることから会員へ出向者の学びを還元できるような設えを考え、参加していただいた会員の皆様に出向活動の理解や学びの共有をする事が出来たことはとても良かったと思います。一から例会を作るにあたり、参加された方に学びを持って帰っていただけるような設えを考えることはとても大変な事なのだと体験できました。
JC歴の短い私にとって知らない事との出会いが多くある1年となりました。この1年で学んだこと、支えてくださった多くの方々に感謝するとともに、今後のJC活動を有意義なものにしていきたいと思います。

「一年間を振り返って」

青少年共育委員会委員長　平田浩一

2019年度青少年共育委員会委員長という大役に若輩の私をご承認頂きました眞野理事長をはじめと致しますメンバーの皆様、また未熟者の私にお声掛け頂きました青山副理事長に感謝申し上げます。そして、事業・例会におきまして、ご協賛、ご協力頂きました企業・団体様、ご参加頂いた皆様にも改めて感謝申し上げます。また、一年間支えて頂いた委員会スタッフ、メンバーへ感謝申し上げます。

2015年に青年会議所の門を叩きましたが、皆さんに誇れる青年会議所活動をしてきた自信はございません。その上で委員会メンバーには、他の団体等で得た学びや経験を少しでもお返しできればと考えたこと、例会などのその都度学びを持って帰って頂くよう促すこと、そして一緒に楽しく活動できるように工夫することを念頭に行動させて頂きました。

基本方針のもと、4月の公開例会では、平成最後の例会というタイミングで、「平成から次代へ〜新たな時代へ夢を描こう〜」と題し、子供と大人が一緒に日本人のこころを学び、ビジョンクリアマップという方法を用いて夢を描くことにより生きる力を共育致しました。制作された皆様は毎日見てらっしゃいますか。

そして、7月公開事業8月公開例会では、「地域を思いやるこころを育もう〜尾張國一之宮真清田神社の池をきれいに〜」と題し、子供100人と青年会議所メンバーで真清田神社の神池の清掃という手法を用い、未来を担う人材を育成させて頂きました。

事業・例会に当たり、自分自身の圧倒的な情熱と行動の必要性、その上で、皆様からのご意見に真摯に向き合うこと、協力会社、関係団体様との協働により、一人ではできないことを実現していくことの大変さ、そして、事業例会が一つ一つ進んでいくことによる達成感を当事者として味わわせて頂き大きな感動を頂きました。ときは流れ2019年度の委員会は終わりとなりますが友情という宝物を頂きました。

そして、2020年度は、青少年共育委員会から、浅野大介理事、髙月礼子理事が誕生します。お二人の活躍を心より応援しております。

最後になりますが、これからも積極的に活動して参りますのでご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。一年間誠にありがとうございました。

「一年間を振り返って」

交流・アカデミー委員会委員長　伊藤匠

まず初めに交流・アカデミー委員長という役を任せていただいた眞野理事長、私を信じ、声をかけていただきました青山副理事長、1年間サポートしていただきました理事会構成メンバーの皆様、何よりも私の近くで最も支えていただきました委員会メンバーの皆様、この場をお借りして感謝申し上げます。ありがとうございました。誰かが言っていた「あなたがいるから私がいる」という言葉の意味が今になって良く分かります。

青山副理事長から声をかけていただいた時に感じたことは、自分で良いのかということでした。アカデミー委員会にいた経験が多かったとはいえ初めての委員長でしたし、自分の中でアカデミー委員長というのは偉大な先輩達がやってきたということもあり、果たして自分がこの役を受けても良いのかと心配でした。

実際に始まってみると心配していたことは気になりませんでした。というのも、私が選んだスタッフメンバーは、どんな時でも私がどのような状況でも支えてくれましたし、本年度入会者は素晴らしい人物ばかりでしたので、アカデミー委員長として1年4カ月やりきることができました。

交流の委員長としては3月の交流例会、8月の大邱JC来日、クリスマス会と大きな出来事が3つありました。自分が苦手とする部分ということもあり、委員会メンバーの皆さんはもちろんのことですが、多くのメンバーの方々に助けていただいて無事に終えることができました。

私は9月の菊水で委員会メンバーに対して、「うちの委員長は俺たちの自慢の委員長だ。かっこいい委員長だ。と思っていただけるように頑張ります。」と宣言しました。しかし、かっこいいとは言えない姿を一番見せたのは委員会メンバーです。委員会メンバーの他にもみっともない姿を見せた方はいらっしゃいましたが、どれだけみっともない姿を見せても支えてくれたみなさんのおかげで最後まで委員長でいることができたと思っております。

「あなたがいるから私がいる」そんな1年でした。

「監事所見」

監事　山岡大介

監事　西岡信幸

1　青年会議所における会員数の減少、在籍年数の減少とそれに伴う経験ある会員の減少は全国的に問題となっており、一宮青年会議所も例外ではない。加えて、事業例会、各種大会等への出席率の低下も近年の課題である。2019年度は、拡大委員会を設置せず理事長を筆頭に全員拡大に取り組んだり、経験の浅い理事の補佐を目的としてアドバイザー制度を導入したりと、前述の課題を解決すべく、意欲的な挑戦を行った年度となった。これらの挑戦的な取り組みが十全に機能したと評価することは難しいが、まずは挑戦自体を高く評価すべきである。前述の状況に鑑みれば、挑戦を忘れ、守株に陥った先には緩慢な死しかない。本年度の挑戦からフィードバックを得て、引き続き課題解決に積極的に取り組んでいただくことを期待する。

2　続いて、各局、委員会が分掌した事務に関する各論を述べる。

⑴　事務局

経験年数の浅い理事が多い中、これをよくまとめて理事会を準備、設営したことは高く評価すべきである。議案の誤字等形式的な不備が目立ったことは惜しい。

⑵　渉外委員会

　愛知ブロック協議会に委員長を輩出し、出向者支援という面で担いの多い年度であったが、副委員長を経験しないいわゆる「飛び級」委員長のもと、目配り気配り心配りでその任を全うしたことを高く評価したい。担当した11月例会も、出向者が得た学びをLOMにフィードバックするという点においては十分な内容であった。

⑶　総務・広報委員会

　途中、委員長が辞任するというアクシデントがあったが、総務、財務に関してはそつなく担っていた。公益社団法人が満たすべき要件の一つである収支相償の達成が容易になるよう会計細則を変更したことは、一宮青年会議所の存続に対する大きな貢献である。

　広報に関しても、SNSの有効活用に着目した6月例会は会員の社業にも活かせる有意義な内容であった。それをLOMの広報に反映しきれなかったことは残念であるが、既に年初に定めた事業計画、予算があったことによるところが大きいだろう。

⑷　まち創り委員会

　前述の課題による歪みが最も顕在化してしまった委員会であった。そのような中でも3例会を完遂したことは評価したい。

⑸　青少年共育委員会

　担当した2例会に関して、青年会議所の事業構築という視点からは、いわゆる手法ありきと非難されるべき面も多々あったが、青少年の共育については必要十分な成果を得た例会であった。真清田神社の池の清掃を行った8月例会は、実施前には種々懸念もあったが、参加者の満足度は高く、真清田神社から感謝状を贈呈されるなど地域との連携強化にも繋がるなどの成果もあった。これも青少年共育委員会の新たな発想と挑戦の成果であると評価する。

⑹　交流・アカデミー委員会

　新入正会員の訓練選考に関して、熱意のある新入正会員を多く育成したことは素晴らしい。交流に関しては、これが必ずしも出席率の向上に繋がらなかったことは残念であるが、会員が参加しやすいようにという視点からの配慮が多くあり、十分に評価されるべきである。

3　以上、2019年度の挑戦による成果は、積極的に評価すべきものも消極的に評価すべきものも多数あり、それはいずれも2020年度以降の活動に活かすことができるものである。それに鑑み、2019年度は、「次代への挑戦～気概溢れる仲間と共に～」のスローガンのとおり、積極果敢な挑戦によって、令和、2020年代という新たな時代の先駆けとなった年度であったと総評する。

「出向活動をふりかえって」

愛知ブロック協議会　LOM連携推進委員会　委員長　坂井田純子

本年度は愛知ブロック協議会、LOM連携推進委員会委員長として出向させていただきました。出向活動において、多くのご支援、ご協力をいただきました眞野理事長はじめメンバーの皆様には心より感謝申し上げます。委員会スタッフ、メンバーとして9名のメンバーをご輩出いただきましたことにも重ねて感謝御礼申し上げます。2009年に入会しほとんど出向経験のない私でしたが、同じ愛知ブロック協議会へ委員長として出向している仲間に非常に恵まれたこと、また、LOM内の活動だけでは出会えることのない多くの方と同じ時間を共有でき、貴重な1年を過ごすことができました。今回の出向を通じ、一宮青年会議所が他のLOMからどう見られているのか、どんなイメージを持たれているのかを理解していたつもりではありましたが、予想以上でした。一宮のメンバーは、何事もできて当たり前だと周りは見ているのだと実感いたしました。私が入会してから厳しい所だと言われている愛知ブロック協議会へ委員長として出向された２名の先輩方へ改めて尊敬の念がつきません。

一宮青年会議所という重すぎる看板を背負いながら私が委員長職を全うできたのも、眞野理事長を始め、現役メンバーのみならず２名の先輩を含め多くの先輩にご支援いただけた結果です。私にはあと２年間、現役メンバーとして活動する時間があり、皆様方のご支援があったからこそ得ることのできた本年の経験は、必ずLOMへ還元しなければならないと考えております。卒業を迎える2021年度には、一宮青年会議所は創立70周年を迎えます。愛知ブロック協議会役員として県内のLOMで開催される多くの賀詞交換会や周年式典に参加する機会をいただき、見聞きした経験、そして、創立60周年に現役メンバーとして在籍していたメンバーの責任として、残りの2年間も全力で活動してまいりますことをお誓い申し上げます。本当にありがとうございました。

出向活動をふりかえって

愛知ブロック協議会　LOM連携推進委員会　総括幹事　山岡大介

本年度、愛知ブロック協議会LOM連携推進委員会に総括幹事として出向させていただきました。皆さんのご支援、ご協力の甲斐あって務めを負えることができました。誠にありがとうございます。
雑感めいた内容になりますが、以下、私が愛知ブロック協議会に出向して感じたことを申し述べます。
愛知ブロック協議会では、議案の作成、事業の構築において、目的、手法、効果が確りと意識され、当該の手法がいかなる効果をもたらし、それが事業目的の達成にどう貢献するのかということが愚直に、妥協なく追求されていました。そして、その背景にあるのは、愛知ブロック協議会は、各地会員会議所から信託された会費によって運営されており、会長以下役員はそれを正しく使用する義務があるという意識でした。この点は大いに学ぶべきことだと感じました。
一方、愛知ブロック協議会は、妥協をしないが故に無理なスケジュールを強行するとも感じました。議案をゼロベースで再検討するよう指示しての取下げ、それに伴う臨時の会議は日常的に行われていましたが、検討に十分な時間が確保されていないスケジュールでこれを行うため、結局再上程される議案も必ずしもブラッシュアップされたものではないということがままありました。事業で例えれば、無理な納期の仕事を受けてくる営業担当者を解雇することが最も業績の改善に繋がるというレベルです。この点は他山の石とすべき点と感じました。
以上、少なからず学ぶべき点がある出向でした。右も左も分からない新入会員であっても、ひととおり役職等を経験した卒業生であっても、それぞれ学びがあるのが出向だと思いますので、機会があれば積極的な検討をお勧めします。

出向活動をふりかえって

日本青年会議所　SDGs推進会議　委員　小川恭司

本年度、日本青年会議所１丁目１番地であります「ＳＤＧｓ推進会議」へ出向させていただいたことに理事長をはじめとします一宮青年会議所のメンバーに心より感謝申上げます。本推進会議では京都会議にはじまり、１２月最終の全体会議及び大懇親会に至るまで、一言でまとめることが難しいくらいの様々な出会いや出来事がありました。その中で最も私の心に刻まれた体験は、サマーコンファレンス２０１９　メインフォーラム「ＳＤＧｓ　Ｔｏ　Ｔｈｅ　Ｆｕｔｕｒｅ」での司会です。なかなか出来ない体験であり、出向者として大変光栄でありました。これが日本か！という出来事も目の当たりにし、ドキドキワクワクの連続。本番直前にシナリオの差替えが永遠に繰り返されたり、トラブル等も多々ありましたが、今となっては笑い話であり貴重な経験となりました。きっと私のＪＣライフの中で最も思い出に残り、今後の財産となることは間違いありません。各種大会の１つであるサマコンで足跡を残せたこと、一宮人として誇りに思います。この体験をＬＯＭに還元していきたいです。１年間、本当にありがとうございました。次年度も出向します！！

ＪＣ活動をふりかえって　　眞野　尚人

2007年下期予定者として28歳でJCに入会し、12年在籍させていただきました。会社経営者でも無く、一宮で商売をしている訳でも無かった私の目標はたった一つ、途中で退会しましたは格好悪いから40歳まで在籍して卒業だけはしよう。奉仕？まちの魅力？誰かのため？明るい豊かな社会？そんなの行政や暇な老人、酔狂な金持ちのやる事だろって本気で思っていました。生意気で自分の事しか考えていない若者代表のようだった私が、理事長になるとは誰も想像していなかっただろうし、自分自身も全く想像していませんでした。壇上で話す人は皆同じことを言います、最初はJC嫌いだった、アンチJCだったって。JC運動は無意識から意識へと意識を変革させる団体です。やってみないと分からない！一言でJCの良さを伝える事は難しくそれが会員数の減少へ繋がっている事は間違いありません。現役の皆さんの中にも、JCやって何になるんだって思っている人も沢山いるでしょう。しかし人生は長い、40歳までという限られた時間の中で、JCに折角出会ったのだから自分の選択を信じ少しだけ無理して、何事にも挑戦して欲しいと思います。
苦しい事ばかりでしたが、かけがえの無い経験を得られた事、全国の同じ志を持った仲間達と出会えた事、パパの仕事はJCで、来年から無職になると心配してくれる愛すべき子供達と家族に感謝。

ＪＣ活動をふりかえって　　青山　直生

2014年に入会した当時はJC活動への魅力や意義が全く分からず悲観的な発言や行動ばかりで周りにメンバーに迷惑ばかりかけていました。そんな私にも親身になって接してくれた多くの方がた、尊敬できる多くの方がたに出逢い少しずつJCに対する意識が変わっていきました。
2017年の委員長の際は、当時の山岡担当副理事長に多くの修練をいただきましたが今ではその修練も愛情の裏返しであった心より感謝しています。この一年は委員会メンバーや同期理事メンバーの多くの友情に支えられ1年4か月をやり遂げることができたのは大きな自信につながりました。2018年東海地区出向、2019年副理事長と役職をお預かりしましたが、2017年の経験が間違いなく挑戦する気持ちにもさせてくれました。
青年会議所は40歳までの人生最後の学び舎であると言われます。ここで得た自己成長を今後の社業や人生に活かしていきたいと思います。
一宮JCに入会して本当に良かったです。6年間本当にありがとございました。

ＪＣ活動をふりかえって　　山岡大介

もともとは、それまでの勤務先と喧嘩別れして独立開業した直後、多少の寂しさを感じていたところに、ある先輩から「それならJC入りゃあ。」と言われ、その際嗜んでいたお酒の勢いもあって「はい、入ります。」と答えて始まったJCでした。

私は、体育会系は苦手でしたし、思考を言語化する能力が不自由で、「いいからやれ。」という類いの人は嫌いでしたが、郷に入っては郷に従え、文句はひととおり体験してから言おうと思い、事業例会にはもれなく出席し、役職もあれこれと担わせていただきました。

そうこうしている間に、学びを得て、視野が広がった自分に気付きました。入会当初、30年間勉強ばかりで浮き世離れしてしまったので、それを改めたいと申し上げた私も、だいぶ人間らしくなりました。JCはよく出来たもので、参加しているうちに、参加するほどに、それぞれが得るべき学びに気付き、それを得る仕組みが組み上げられています。やらずに文句は言えんよな、で参加した私も、いつの間にか学びを得て、いつの間にか学びを他の誰かにも、となっていました。時間もお金も使いましたし、ストレスを感じることもありました。しかし、JCで得た、人にも学びをという考えは、かけがえのないものだと感じています。これまで、出来ない人に掛けるこれ以上のコストは無駄と切り捨てていたものを、これからは拾っていくと思います。

現役メンバーの皆さんも、まずは参加することを心がけていただければと思います。私のような人間も変えてしまうJCです。参加するうちに、皆さんにも良い変化があるはずです。

ＪＣ活動をふりかえって　　光樂朋尚

まずは2014年下期で一宮青年会議所の門を叩き、6年間自分のような者に対して温かく迎え入れていただき、快く接していただきましたことに感謝申し上げます。

6年間という決して長くない青年会議所活動でしたが、私のような従業員がいない個人事業主みたいな人間が毎年役を受けさせていただき、青年会議所活動をやり切った感でいっぱいです。毎年、様々な活動をさせていただきました。多くの刺激をいただき、また多くの学びをいただきました。普段では経験できないことを経験させていただき、普通に生活していては出遇えなかった仲間とも出遇い、青年会議所活動でしか見ることができない景色というものを見させていただきました。これからの若い世代の人たちには青年会議所しかできないこと、青年会議所しか見られない世界を自分自身で経験していただきたいと思います。

一宮青年会議所には感謝しかありません。6年間共に過ごしていただきましたメンバーの皆様や、このような非常に多くの経験や機会を与えてくださいました一宮青年会議所に感謝申し上げます。本当に今までありがとうございました。

ＪＣ活動をふりかえって　　森一彦

青年会議所在籍中は思い返せばいろいろなことがありましたが、十年近い期間を過ごし、卒業を迎えて今思うことは、いろんな苦労も、楽しい思い出も、過ぎてみればあっという間で、もっと全力で楽しめばよかったと、名残惜しく感じています。

私の好きな映画に「子供の頃、夏休みは瞬く間に終わったよな。不思議なもんだ、人生はあの夏休みより早く過ぎ去っていく」という台詞があるのですが、青年会議所在籍期間（＝ＪＣライフ）も子供の頃の夏休みと同じように、始まったときには長く思えても、終わってみればあっという間の出来事です。青年会議所で活動する数年間が自分にとって価値のあるものになるかどうかは、公私どちらにせよ自分がそれにどれだけ取り組んだかによるのだと思います。
もっとこうすればよかったという悔いも多少あるけれど、楽しく充実したＪＣライフでした。ご縁のあった全ての皆さんに感謝したいと思います。ありがとうございました。

ＪＣ活動をふりかえって　　三嶋啓一郎

2014年に入会させていただき、丸5年間所属させていただきました。

仕事や家族の制約の多い中、最終的には副理事長まで務めさせていただき、一緒に活動していただきましたメンバーには感謝しかございません。本当にありがとうございました。また多くのご迷惑をおかけしたことをこの場をお借りして心からお詫び申し上げます。

青年会議所は多くの時間、お金をかけて様々な学びを得る場所です。私も多くの時間、お金を使い、たくさんの出会い、学びがございました。辛いことも多く、時には辞めようかと思うことも多くありましたが、最後まで続けることができて本当よかったと思っています。

卒業してから、どうこの出会いと学びを使うのかを考え、今後も頑張っていきたいと思います。
本当にありがとうございました。

事業報告書

2019 年 1 月 1 日

2019 年 12 月 31 日

公益社団法人　一宮青年会議所

【総会関係報告】

①定時総会
2019 年 1 月 28 日　一宮商工会議所大ホール
【第 1 号議案】 公益社団法人一宮青年会議所 2018 年度　事業報告の承認に関する件
【第 2 号議案】 公益社団法人一宮青年会議所 2018 年度　収支報告書の承認に関する件
【第 3 号議案】 公益社団法人一宮青年会議所 2019 年度　委員会･局の構成･事業計画･
事業予算の変更の承認に関する件
【第 4 号議案】 公益社団法人一宮青年会議所 2019 年度　正会員組織図の修正の承認に関する件
【第 5 号議案】 公益社団法人一宮青年会議所 2019 年度　正味財産増減予算の修正の承認に関する件

②臨時総会
● 第 1 回臨時総会　2019 年 4 月 26 日　一宮商工会議所大ホール
第 1 号議案　　公益社団法人一宮青年会議所会員資格規程の変更に関する件
第 2 号議案　　公益社団法人一宮青年会議所役員選出規程の変更に関する件
第 3 号議案　　公益社団法人一宮青年会議所 2019 年度　委員会・局の構成・事業計画・事業予算の変更の承認に関する件
第 4 号議案　　公益社団法人一宮青年会議所 2019 年度　正会員組織図の修正の承認に関する件
第 5 号議案　　公益社団法人一宮青年会議所　2019 年度　正味財産増減予算の修正の承認に関する件

● 第 2 回臨時総会　2019 年 8 月 28 日　一宮市市民会館　大会議室
第 1 号議案　公益社団法人一宮青年会議所　2020 年度役員候補者承認に関する件
第 2 号議案　青少年共育委員会　事業計画 2 の事業予算の補正に関する件

③　役員選出総会
2019 年 12 月 26 日　アイプラザ一宮　小ホール
第 1 号議案　公益社団法人一宮青年会議所　2020 年度組織図（案）の承認に関する件
第 2 号議案　公益社団法人一宮青年会議所 2020 年度　委員会・局の基本方針（案)・事業計画（案)・予算（案）に関する件
第 3 号議案　公益社団法人一宮青年会議所　2020 年度入会金及び会費（案）に関する件
第 4 号議案　公益社団法人一宮青年会議所　2020 年度正味財産増減予算書(案)に関する件
第 5 号議案 公益社団法人一宮青年会議所　2020 年度事業及び予算の執行に関する件

第 6 号議案　公益社団法人一宮青年会議所　2020 年度資産の管理方法（案）に関する件
第 7 号議案　公益社団法人一宮青年会議所　2020 年度顧問・相談役の承認に関する件
第 8 号議案　公益社団法人一宮青年会議所　2020 年度名誉会員の承認に関する件
第 9 号議案　公益社団法人一宮青年会議所　2020 年度賛助会員の承認に関する件
第 10 号議案　公益社団法人一宮青年会議所会計細則の変更の承認に関する件

【理事会関係報告】

理事会構成メンバー
理事長　眞野尚人　副理事長　大島航　青山直生　光樂朋尚　三嶋啓一郎
理事　東賢吾　小森香奈　伊藤匠　平田浩一
監事　山岡大介　西岡信幸

第 1 回理事会　2019 年 1 月 12 日
① 2018 年度公益社団法人一宮青年会議所　決算報告書の承認に関する件
② ’19 正会員及び正会員予定者の確認の承認に関する件
③ ’19 正会員組織図の修正の承認に関する件
④ ’19 委員会の構成員・事業計画・事業予算の変更の承認に関する件
⑤ ’19 日本・地区・ブロックへの出向の変更及び追加の承認に関する件
⑥ ’19 正味財産増減予算書の修正の承認に関する件
⑦ ’19 定時総会の開催の承認に関する件
⑧ ’19LOM 基本資料の発行・発送（3 月）に関する件
⑨ 2018 年度年会報の発行（3 月）の承認に関する件

第 2 回理事会　2019 年 2 月 13 日
① 2019 年度 LOM 基本資料の発行・発送（3 月）
② 2018 年度年会報の発行(3 月)に関する件
③ 3 月例会に関する件

第 3 回理事会　2019 年 3 月 12 日
① ’19 組織図変更の承認に関する件
② ’19 まち創り委員会の基本方針・事業計画・予算の修正に関する件
③ 会員資格規程及び役員選出規程の変更に関する件
④ 理事長候補者・監事候補者選考委員会の決定の承認に関する件

第 4 回理事会　2019 年 4 月 16 日
1） ’19 委員会の基本方針・事業・予算の修正に関する件
2） ’19 正味財産増減予算書の修正の承認に関する件
3） 会員資格規程及び役員選出規程の変更に関する件
4） ’19 第 1 回臨時総会（案）の承認に関する件
5） 例会の開催(2 月)の事業報告に関する件

6） 天皇陛下ご即位記念特集広告協賛の承認に関する件
7） 第 64 回おりもの感謝祭一宮七夕まつり協賛の承認に関する件
8） 事務局ゴールデンウイークの休暇の承認に関する件
9） ’19 選挙管理委員会の委員の指名の承認に関する件

第 5 回理事会　2019 年 5 月 14 日
1） 例会の開催（6 月）の承認に関する件
2） 例会の開催(7 月)の承認に関する件
3） 未来を担う人材の育成（7 月～8 月）の承認に関する件
4） 例会の開催（3 月）の事業報告の承認に関する件
5） 社団法人大邱江北青年会議所訪韓に伴う理事長代行者の承認に関する件

第 6 回理事会　2019 年 6 月 13 日
1） 会員の拡大(1 月～12 月)の承認に関する件
2） 未来を担う人材の育成（7 月～8 月）に関する修正の承認に関する件
3） オリエンテーションの開催（7 月～12 月）に関する件
4） 賀詞交歓例会(1 月)の事業報告の承認に関する件
5） 2018 年 LOM 基本資料の発行・発送(2 月)の事業報告の承認に関する件
6） 例会の開催（3 月）の事業報告の承認に関する件
7） 2018 年度年会報の発行(3 月)の事業報告の承認に関する件
8） おりもの感謝祭一宮七夕まつりの協賛の承認に関する件
9） 2019 濃尾大花火の協賛の承認に関する件

第 7 回理事会　2019 年
1） とうかい号乗船者募集（1 月～3 月）の事業報告の承認に関する件
2） 賀詞交歓例会（1 月）の事業報告に関する件

第 8 回理事会　2019 年 8 月 8 日
1） とうかい号乗船者募集(1 月～3 月)の事業報告の承認に関する件
2） 上期オリエンテーション(1 月～6 月)の事業報告の承認に関する件
3） JC だよりの発行(9 月)の承認に関する件
4） 西尾張 6JC 合同例会の開催(9 月)の承認に関する件
5） 2020 年度 LOM 基本資料の作成(9 月～12 月)の承認に関する件

6） ’19 青少年共育委員会の事業予算の補正に関する件
7） ’19 第 2 回臨時総会（案）の承認に関する件

第 9 回理事会　2019 年 9 月 11 日
1） 例会の開催（10 月）の承認に関する件
2） オリエンテーションの開催（7 月～12 月）の修正の承認に関する件
3） 一宮市観光協会会費の納入の承認に関する件
4） 第 21 回大江川クリーン作戦　後援名義の使用の承認に関する件

第 10 回理事会　2019 年 10 月 16 日
1）会員の拡大の承認に関する件

第 11 回理事会　2019 年 11 月 12 日
1）役員の辞任の承認に関する件
2）会員の拡大の承認に関する件
3）例会の開催（4 月）の事業報告の承認に関する件
4）例会の開催（5 月）の事業報告の承認に関する件
5）例会の開催（6 月）の事業報告の承認に関する件
6）第 46 回 JC 青年の船「とうかい号」乗船者支援（4 月～7 月）の事業報告に関する件
7）卒業例会の開催（12 月）に関する件
8）2019 年度年会報の作成（12 月）の承認に関する件
9）出席率 100%会員及び優秀会員の表彰（12 月）の承認に関する件

第 12 回理事会　2019 年 12 月 9 日
公益社団法人一宮青年会議所　会計細則の変更に関する件

① 会員の拡大の承認に関する件
② 例会の開催（5 月）の事業報告の承認に関する件
③ 第 46 回 JC 青年の船「とうかい号」乗船者支援（4 月～7 月）の事業報告の承認に関する件
④ 未来を担う人材の育成（7 月～8 月）の修正の承認に関する件
⑤ 例会の開催（9 月）の事業報告の承認に関する件
⑥ ＪＣだよりの発行（9 月）の事業報告の承認に関する件
⑦ 例会の開催（10 月）の事業報告の承認に関する件

⑧　例会の開催（11 月）の事業報告の承認に関する件
⑨　特別会員の承認に関する件
⑩　’20 組織図（案）の承認に関する件
⑪　’20 委員会の基本方針（案）・事業計画（案）・予算（案）の承認に関する件
⑫　’20 入会金及び会費（案）の承認に関する件
⑬　’20 正味財産増減予算書（案）の承認に関する件
⑭　’20 事業及び予算の執行の承認に関する件
⑮　’20 資産の管理方法（案）の承認に関する件
⑯　’20 顧問・相談役の承認に関する件
⑰　’20 名誉会員の承認に関する件
⑱　’20 賛助会員の承認に関する件
⑲　’20 役員選出総会の開催の承認に関する件
⑳　事務局冬季休暇の承認に関する件

決算理事会　2020 年 1 月 8 日
①　各種大会・事業・会議への案内及び参加の促進（1 月～12 月）の事業報告の承認に関する件
②　出向者の支援（1 月～12 月）の事業報告の承認に関する件
③　会員一人ひとりが発信元となる広報活動（1 月～12 月）の事業報告に関する件
④　例会の開催（7 月）の事業報告の承認に関する件
⑤　下期オリエンテーション（7 月～12 月）の事業報告の承認に関する件
⑥　2020 年度 LOM 基本資料の作成（9 月～12 月）の事業報告の承認に関する件
⑦　例会の開催（10 月）の事業報告の承認に関する件
⑧　出席率 100%会員及び優秀会員の表彰(12 月)の事業報告に関する件
⑨　年会報の発行（12 月）の事業報告に関する件
⑩　卒業例会の開催（12 月）の事業報告の承認に関する件
⑪　’19　決算報告書の承認に関する件

【各種委員会　事業報告】

＜１＞渉外委員会
委員会構成メンバー

委員長	小森　香奈	副委員長	伊東　大徳	副委員長	榊原　健人	幹事	内田　孝暁
アドバイザー	野田　敏弘	委員	小川　恭司	委員	小嶋　崇弘	委員	坂井田　純子
委員	吉田　悟						

事業計画１　会員の拡大(1 月～12 月) 他１
事業計画２　第 46 回 JC 青年の船「とうかい号」乗船者募集(1 月～3 月)　他１
（事業内容）
ポスター掲示、ホームページ、フェイスブックなどを利用し、効率的に不特定多数の人に「とうかい号」の事業を PR し、参加者を募集した。また、歴代理事長、先輩企業への訪問や新たな募集先企業の選定を行い、企業への個別訪問、各団体の事業・例会時にとうかい号の PR 活動を行い、参加者を募集した。

事業計画３各種大会・事業・会議への案内及び参加促進(1 月～12 月)　他１
（事業内容）
各種大会・事業・会議に関する最新情報をグループ LINE、Facebook を活用して会員に迅速に分かりやすく発信するとともに、意義を全会員に明確に伝え、一人でも多くの会員に参加していただけるように積極的に呼びかけを行った。

事業計画４出向者支援(1 月～12 月)　他１
（事業内容）
Facebook を継続し、管理・運営を通して、出向者の活動状況やスケジュール、依頼事項などの情報を、Facebook やメール、グループ LINE などの SNS ツールを利用して会員に対して情報提供し、LOM メンバーと出向者の活動の理解を促進させた。

事業計画５例会の開催(2 月)　他１
（事業内容）
名古屋会議同日に例会を開催し、愛知ブロック協議会に出向するメンバーの活動のスタートを近くで見守り、出向者支援につなげた。出向者から、メンバーに対して伝えたいことを資料にまとめ提出いただき配布し、出向者の活動の理解を深めた。

事業計画６第 46 回 JC 青年の船「とうかい号」乗船者支援(4 月～7 月)　他１

（事業内容）
下記の通り開催される「とうかい号」の事業に参加し、乗船前及び乗船中の乗船者を支援した。
とうかい号結団式 2019 年 4 月 29 日(月祝)
とうかい号壮行会 2019 年 6 月 1 日(土)
とうかい号出航式 2019 年 6 月 2 日(日)
とうかい号期間 6 月 2 日～8 日
とうかい号帰港式 2019 年 6 月 8 日(土)
とうかい号 下船後の集い 2019 年 7 月 14 日(日)

事業計画 7 例会の開催(11 月)他 1
11 月 21 日開催　11 月例会　「あいつ出向したいってよ」
会場：一宮市民会館　対象：一宮青年会議所メンバー
（事業内容）
例会内で各種大会・事業・会議の映像スライドにて 1 年間を振り返る。
事前アンケートにより作成したかるたを行い、かるたの合間にかるたに因んだエピソードを出向者より話し、出向活動の学びの共有、出向者活動の理解、出向していないメンバーが知りえないような内容を LOM メンバーに伝えた。
これにより、本例会は、主に出向者が出向先で得た学びを LOM 内で共有することで、メンバー一人ひとりが出向者の学びを吸収し、理解することで LOM の結束力を高めた。

事　業　名	予 算 額
① 会員の拡大(1月～12月) 他1	0円
② 第46回JC青年の船「とうかい号」乗船者募集(1月～3月) 他1	1,000円
③ 各種大会・事業・会議への案内及び参加促進(1月～12月)他1	0円
④ 出向者支援(1月～12月)他1	0円
⑤ 例会の開催(2月)他1	15,000円
⑥ 第46回JC青年の船「とうかい号」乗船者支援(4月～7月) 他1	50,000円
⑦ 例会の開催(11月)他1	50,000円
合　計	116,000円

＜２＞総務委員会

委員長	岩田　祐治	副委員長	日比野　治義	副委員長	広瀬　和義	幹事	廣田　領志
アドバイザー	髙垣　遵	委員	林　辰徳	委員	平田　哲也	委員	山口　哲二

事業計画１　会員の拡大(1 月～12 月)　他 1
事業計画２　賀詞交歓会例会の開催(1 月)　 他 1
（事業内容）
2019 年 1 月 16 日（水）17 時～19 時 30 分　会場　尾張一宮駅前ビル
市長をはじめとする来賓、他の日本 JC、愛知ブロック協議会役員、他の青年会議所役員、一宮青年会議所の特別会員など 110 名をお呼びして、１年の始まりとなる賀詞交歓例会を開催し、理事長所信を発信することで、2019 年の行動指針を示した。

事業計画３　総務財務の運営管理(1 月～12 月)　他 1
事業計画４　会員一人ひとりが発信元となる広報活動(1 月～12 月)　他 1
（事業内容）
中日新聞、ＩＣＣなどのメディアやホームページ及び SNS を活用することで、一宮青年会議所の情報（例会案内、参加者募集、例会報告など）を随時発信し広報活動を行った。

事業計画５　 2019 年度 LOM 基本資料の発行・発送（3 月）　 他 1
事業計画６　2018 年度年会報の発行(3 月)　他 1

事業計画７　例会の開催(6 月)　他 1
（事業内容）
6 月例会「SNS を活用した広報とは。学ぼう、会員一人ひとりが発信元になるために」
2019 年 6 月 21 日（金）会場　アイプラザ一宮　対象　一宮青年会議所メンバー
SNS の情報発信の専門家である坂田先生をお招きして、講師の方からの講義という形で、SNS を活用した効果的な広報活動の方法を学んだ。メンバーに馴染みがあり、日常でも頻繁に利用している Facebook や Twitter、インスタグラムなどの SNS をメインとして、広報への意識を高め、効果的な利用方法を学ぶことで、会員個々が自ら LOM の魅力が情報を発信して、より多くの市民に一宮青年会議所の活動及び JAYCEE の魅力を知っていただく方法を学んだ。

事業計画８　西尾張 6JC 合同例会の開催(9 月)　他 1
（事業内容）
西尾張６ＪＣ合同例会

2019 年 9 月 25 日（火）扶桑文化会館　メインホール　対象　西尾張 6 青年会議所全会員
本年度理事長の挨拶とともに、次年度理事長予定者の紹介、挨拶を行い、2020 年度の事業方針を確認した。

事業計画９　2020 年度 LOM 基本資料の作成(9 月～12 月）　他 1

事業計画１０　JC だよりの発行(9 月）　他 1
（事業内容）
2019 年の一宮青年会議所の事業内容を集約した「ＪＣだより」を作成し、一宮市市役所、商工会議所や他の青年会議所メンバー、一宮青年会議所の特別会員等に配布した。

事業計画１１　2019 年度年会報の作成(12 月）　他 1

事業計画１２　出席率 100%会員及び優秀会員の表彰(12 月）　他 1

事　業　名	予 算 額
① 会員の拡大(1月～12月）他1	0円
② 賀詞交歓会例会の開催(1月） 他1	372,000円
③ 総務財務の運営管理(1月～12月）他1	0円
④ 会員一人ひとりが発信元となる広報活動(1月～12月）他1	130,000円
⑤ 2019年度LOM基本資料の発行･発送(3月） 他1	280,000円
⑥ 2018年度年会報の発行(3月）他1	0円
⑦ 例会の開催(6月）他1	200,000円
⑧ 西尾張6JC合同例会の開催(9月）他1	0円
⑨ 2020年度LOM基本資料の作成(9月～12月）他1	0円
⑩ JCだよりの発行(9月）他1	100,000円
⑪ 2019年度年会報の作成(12月）他1	0円
⑫ 出席率100%会員及び優秀会員の表彰(12月）他1	30,000円
合　　計	1,112,000円

＜３＞　まちづくり委員会

委員長	矢田　雅揮	副委員長	夫馬　敦士	幹事	篠田　陽介	幹事	森　政樹
アドバイザー	青木　俊宏	アドバイザー	伊藤　基児	委員	鵜飼　和司	委員	大倉　美鈴
委員	大宮　有貴	委員	梯　大将	委員	河尻　祐志	委員	鈴木　昌弘
委員	墨　晃大	委員	森　一彦				

事業計画１　会員の拡大(1 月～１２月)　公益１

事業計画２　例会の開催(5 月)　公益１
5 月公開例会「いちスタ いちのみやインスタ映えコンテスト～一宮の魅力を発見～」
2019 年 5 月 18 日　会場　一宮市民会館
①インスタ映えコンテスト
募集期間　 2019 年 4 月 1 日（月）9：00～2019 年 4 月 30 日（火・祝))
募集内容　一宮市の風景やスポット、行事、特産品、文化、食べ物等の魅力あるもの、またはその可能性を秘めたものについて、インスタ映えを考慮し撮影した写真。
527 作品の募集があり、優秀作品 4 作品を決定し、表彰した。
②　講演会 講師：穂苅万博氏、東村ちあき氏、深川真知子氏、日比野泰和氏によるクロストーク。「魅力ある写真の撮り方、伝え方講座」
地域住民が地域の魅力を自ら探求し、写真という手法を用いて一宮の様々な魅力に触れる機会となった。当日のコンテストを通じて、いろいろな方々が撮影した一宮の魅力に参加者自身が触れることができ、新たな魅力を発見する機会となったと共に、まちを愛する心を育む事が出来た。

事業計画２　例会の開催(7 月)　公益１
（事業内容）
7 月例会　「愛ＦＥＳ　Ｉｃｈｉｎｏｍｉｙａ」　来場者　110 名
コンセプトは「市民と共に創り上げる、市民の為のＦＥＳ」
我々の住むまち一宮のシンボルである 138 タワーパークにて、「愛ＦＥＳ　Ｉｃｈｉｎｏｍｉｙａ」と題して、地元アーティスト、市民団体のステージ、体験ブース、物販ブース、一宮 JC ブース、キッチンカーブースを設けた。また、光る短冊を渡し、願い事を書いてもらうことにより、市民と交流を図り、様々な個性を発見した。 更に 138 ツインアーチの無料チケットを配布する事により、来場者が減っている、一宮市のシンボルへの魅力の再発見をしてもらった。
参加者は「愛 FES　ICHINOMIYA」に参加して、一宮市に関心を持ってもらい興味を持っていただけた。また、個性豊かな出店者様や出演者様により一宮市が個性溢れるまちで

あるということが確認していただくことができた。また、「愛 FES　Ichinomiya」で参加者と共に作成した光る短冊を一宮七夕まつりに展示することにより、当日参加された方には光る短冊や一宮七夕まつりに関心を持っていただくことができた。

事業計画３　例会の開催(10 月)　公益１

（事業内容）

2019 年 10 月 27 日　一宮だいだいフェスタ大集合 for Halloween 2019 138 ハロウィン～おりものパレード～

会場：一宮市本町商店街　参加者：850 名

一般市民を対象に参加者を募集し、ハロウィンパレードを開催した。パレード車やフォトスポットを作成し、パレードを盛り上げた。

パレードは市民にとって無くてはならない秋の一宮のイベントとなり、市民に愛されるパレードになっている。参加者は 850 名もおり、多くの市民を巻き込み、まちを愛するこころを育んでいただくことができた。

事　業　名	予 算 額
① 会員の拡大(1月～12月)	0円
② 例会の開催(5月)	800,000円
③ 例会の開催(7月)	1,700,000円
④ 例会の開催(10月)	1,450,000円
合　計	3,950,000円

＜4＞青少年共育委員会

委員長	平田　浩一	副委員長	中村　有吾	副委員長	浅野　大介	幹事	小野寺　優
幹事	和田　修汰	アドバイザー	大野　陽平	アドバイザー	坂井　大輝	委員	秋田　雅之
委員	加古川　和也	委員	小寺　浩至	委員	小橋　一慶	委員	曽我　優樹
委員	髙月　礼子	委員	森　彩樹				

事業計画１　会員の拡大（1 月～12 月）

事業計画２　例会の開催（4 月）公益１
（事業内容）
4 月公開例会　平成から次代へ～新たな時代へ夢を描こう～
4 月 27 日　アイプラザ一宮　対象者　一般募集した小学 3 年～中学 1 年生の子供とその親 52 名　講師：横山みどり氏

①日本人の「こころ」を学びます。プレゼンと、テーブル内での討議をしていただき、一緒に学んだ。
②ビジョンクリアマップの意義と価値を参加者が学んだ
③ 参加者がビジョンクリアマップを制作
④制作したビジョンクリアマップを複数の親子とメンバーで披露

プレゼンと討議を通し、日本人のこころを学び、ビジョンクリアマップを子供、保護者が、楽しく描くことで、自分を見つめなおし、夢に向けた行動を考えることができた。これにより、日本人の「こころ」を学び、そして、自分とは何かという存在意義を知り、大切にしているものなどの価値観を認識し、そこから夢を描くことにより「生きる力」を共育し強い子供を育成できた。そして、それに関わる保護者の方も、改めて自分を見つめ、夢を描き「生きる力」を共育できた。

事業計画３　未来を担う人材の育成（7 月～8 月）公益１
（事業内容）
8 月公開例会　地域を思いやるこころを育もう～尾張國一之宮真清田神社の池をきれいに～
2019 年 7 月 15 日　事前説明、8 月 24 日、25 日　例会開催　会場　真清田神社
参加者：一般募集された小学 3 年生から 6 年生の子供　75 名

参加者は、真清田神社の池の清掃をし、チームに分かれ助け合い、池をきれいにすることによる達成感を全体で感じた。その 過程で、自分自身が挑戦することと他者と助け合い進めていくことにより、挑戦することの大切さと共に、また、他 者と協力することの重要性、他者を思いやることを学ぶことができた。

積極的に、楽しそうに挑戦をしてもらうことが参加したほとんどの子供ができた。チームでの掃除を通して、他者を思いやりながら行うことができた。これらにより、挑戦が達成できた喜びを味わって頂き、生きる力を共育でき、そして、思いやりのこころ、生きる力を共育できた未来を担う人材を育成できたと考える。

事　　業　　名	予 算 額
① 会員の拡大(1月～12月)	0円
② 例会の開催(4月)	300,000円
③ 未来を担う人材の育成(7月～8月)	1,655,000円
合　　計	1,955,000円

＜5＞交流アカデミー委員会

委員長	伊藤　匠	副委員長	朝日　健二	副委員長	杉村　泰地	幹事	宇佐見　彰浩
アドバイザー	髙月　英昭	委員	鈴木 沙耶佳	委員	中野　洋介	委員	森　大介

事業計画1　会員の拡大（1月～12月）　他1

事業計画2　上期オリエンテーションの開催（1月～6月）　他1
事業計画6　下期オリエンテーションの開催（7月～12月）　他1
（事業内容）
予定者に対してオリエンテーションを実施した。
オリエンテーションを通してひたむきに活動することの大切さを伝え、自己成長をつかみ取ることができる人材へと育成することができた。

事業計画3　姉妹JCとの交流（1月～12月）他1
（事業内容）
姉妹ＪＣであるテグ青年会議所との交流を行った
テグ青年会議所への訪問　6月27日～29日
一宮青年会議所へテグメンバー訪問　8月30日～9月1日

例会の開催（3月）　他1
（事業内容）
3 月例会「青年たちよ一丸となれ‼」
3月20日　会場　一宮市民会館　対象　一宮青年会議所メンバー

全体でのゴール達成のために、グループという小さな単位がそれぞれの目標を達成する。グル ープの目標を達成するために、個々がグループの目標と全体のゴールに向かって行動することの大切さに気付くことができる手法として、グループでカードゲームを行った。 参加者全員でゴールするプロセスを体験することで、一つの目的を達成するために一丸となることの大切さにきづくことができた。

卒業例会の開催（12月）他1
（事業内容）
12月例会　卒業例会の開催　12月11日　会場　一宮商工会議所
卒業式を行い、例会に参加したメンバーは卒業生に感謝と敬意を伝えることができた。ま

た、卒業生一人ひとりにスピーチをしていただくことで一宮青年会議所の会員としての自覚と責任を継承することができた。

事　　業　　名	予 算 額
① 会員の拡大(1月～12月)	0円
② オリエンテーションの開催(1月～6月)	71,000円
③ 姉妹JCとの交流(1月～12月)	0円
④ 例会の開催(3月)	30,000円
⑤ 卒業例会の開催(12月)	164,000円
⑥ オリエンテーションの開催(7月～12月)	71,000円
合　　計	336,000円

法　人　名：公益社団法人　一宮青年会議所

正味財産増減計算書

2019年　1月　1日 から2019年　12月 31日 まで

（単位：円）

科　　目	決算書
Ⅰ　一般正味財産増減の部	
1. 経常増減の部	
(1)経常収益	
①受取入会金	270,000
受取入会金	270,000
②受取会費	
正会員受取会費	7,500,000
予定者登録料	660,000
賛助会員受取会費	45,000
特別会員受取会費	200,000
受取会費計	8,405,000
③事業収益	
登録料収益	78,000
協賛金収入	1,993,099
事業収益計	2,071,099
④受取補助金等	
受取地方公共団体補助金	306,000
受取補助金等計	306,000
⑤雑収益	
受取利息	2,900
雑収益	253,343
雑収益計	256,243
経常収益計	11,308,342
(2)経常費用	
①事業費	
会場設営費	4,291,289
講師関係費	962,540
印刷製本費	558,518
旅費交通費	0
広報費	1,065,818
参加記念品	346,325
通信費	0
保険料	0
雑費	10,592
地代家賃	1,162,035
光熱水料費	67,091
給与手当	1,020,000
通信運搬費	276,685
消耗品費	74,850
印刷製本費	15,427
賃借料	269,896
減価償却費	41,883
事業費計	10,162,949
②管理費	
地代家賃	205,065
光熱水料費	11,841
給与手当	180,000
会議費	0
旅費交通費	600
福利厚生費	48,474
通信運搬費	48,828
消耗品費	15,933
賃借料	47,629
減価償却費	7,392
会計監査手数料	162,750
国内国際渉外費	54,000
慶弔費	98,570
交際費	13,000
雑費	137,636
JCI負担金	103,090
日本JC負担金	597,385
東海地区協議会負担金	152,500
愛知ブロック協議会負担金	848,500
国際協力資金	111,325
その他負担金	86,500
管理費計	2,931,018
経常費用計	13,093,967
当期経常増減額	△ 1,785,625
2. 経常外増減の部	
(1)経常外収益	
経常外収益計	0
(2)経常外費用	
雑損失	300,000
経常外費用計	300,000
当期経常外増減額	△ 300,000
当期一般正味財産増減額	△ 2,085,625
一般正味財産期首残高	38,544,647
一般正味財産期末残高	36,459,022
Ⅱ　指定正味財産増減の部	
当期指定正味財産増減額	0
指定正味財産期首残高	0
指定正味財産期末残高	0
Ⅲ　正味財産期末残高	36,459,022

A020459
公益社団法人一宮青年会議所

正味財産増減計算書

2019年1月1日から2019年12月31日まで

（単位：円）

科　目	実施事業等会計	その他会計	法人会計	内部取引控除	合計
	公1	他1			
Ⅰ　一般正味財産増減の部					
1. 経常増減の部					
(1)経常収益					
受取入会金	135,000	67,500	67,500	0	270,000
受取入会金	135,000	67,500	67,500		270,000
受取会費	4,202,500	2,101,250	2,101,250	0	8,405,000
正会員受取会費	3,750,000	1,875,000	1,875,000		7,500,000
予定者登録料	330,000	165,000	165,000		660,000
賛助会員受取会費	22,500	11,250	11,250		45,000
特別会員受取会費	100,000	50,000	50,000		200,000
事業収益	2,071,099	0	0	0	2,071,099
登録料収益	78,000				78,000
協賛金収入	1,993,099				1,993,099
受取補助金等	306,000	0	0	0	306,000
受取地方公共団体補助金	306,000				306,000
雑収益	2,900	0	253,343	0	256,243
受取利息	2,900		0		2,900
雑収益			253,343		253,343
経常収益計	6,717,499	2,168,750	2,422,093	0	11,308,342
(2)経常費用					0
事業費	7,447,590	2,715,359		0	10,162,949
会場設営費	3,967,285	324,004			4,291,289
講師関係費	732,180	230,360			962,540
印刷製本費	82,076	476,442			558,518
旅費交通費		0			0
広報費	723,848	341,970			1,065,818
参加記念品	250,000	96,325			346,325
保険料	0	0			0
雑費	4,372	6,220			10,592
地代家賃	669,879	492,156			1,162,035
光熱水料費	38,676	28,415			67,091
給与手当	588,000	432,000			1,020,000
通信運搬費	159,501	117,184			276,685
消耗品費	43,149	31,701			74,850
印刷製本費	8,893	6,534			15,427
賃借料	155,587	114,309			269,896
減価償却費	24,144	17,739			41,883
管理費			2,931,018	0	2,931,018
地代家賃			205,065		205,065
光熱水料費			11,841		11,841
給与手当			180,000		180,000
旅費交通費			600		600
福利厚生費			48,474		48,474
通信運搬費			48,828		48,828
消耗品費			15,933		15,933
賃借料			47,629		47,629
減価償却費			7,392		7,392
会計監査手数料			162,750		162,750
国内国際渉外費			54,000		54,000
慶弔費			98,570		98,570
交際費			13,000		13,000
雑費			137,636		137,636
JCI負担金			103,090		103,090
日本JC負担金			597,385		597,385
国際協力資金			111,325		111,325
東海地区協議会負担金			152,500		152,500
愛知ブロック協議会負担金			848,500		848,500
その他負担金			86,500		86,500
経常費用計	7,447,590	2,715,359	2,931,018	0	13,093,967
当期経常増減額	△ 730,091	△ 546,609	△ 508,925	0	△ 1,785,625
2. 経常外増減の部					0
(1)経常外収益					0
経常外収益計	0	0	0	0	0
(2)経常外費用					0
貸倒損失			300,000		300,000
経常外費用計	0	0	300,000	0	300,000
当期経常外増減額	0	0	△ 300,000	0	△ 300,000
当期一般正味財産増減額	△ 730,091	△ 546,609	△ 808,925	0	△ 2,085,625
一般正味財産期首残高	0	0	38,544,647		38,544,647
一般正味財産期末残高	△ 730,091	△ 546,609	37,735,722	0	36,459,022
Ⅲ　正味財産期末残高	△ 730,091	△ 546,609	37,735,722	0	36,459,022

公益社団法人　要件検討

①公益事業比率

公益事業費用	7,447,590	①
全体費用	13,093,967	②
公益事業比率	56.9%	①/②

→50%以上となり、要件を満たす

②収支相償

公益事業収入	6,717,499	①
公益事業費用	7,447,590	②
差額	−730,091	③＝①－②
特定費用準備金	−500,000	④
過年度超過分H29	353,079	⑤
過年度超過分H30	296,784	⑥
合計	−580,228	③+④+⑤+⑥

合計がマイナスとなり、要件を満たす

③遊休財産

遊休財産保有上限	7,947,590	公益事業費+特定費用500,000円
遊休財産	6,159,022	期末財産
差額	−1,788,568	遊休財産OK

→遊休財産が上限以下となり要件を満たす

法　人　名：公益社団法人　一宮青年会議所

貸借対照表

2019年　12月 31日 現在

（単位：円）

科　　目	当　年　度	前　年　度	増　　減
Ⅰ　資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	4,234,268	7,287,718	△ 3,053,450
未収金	1,110,000	830,000	280,000
立替金	100,000		100,000
前渡金	8,000	8,000	0
流動資産合計	5,452,268	8,125,718	△ 2,673,450
2. 固定資産			
(1)定期預金	29,000,000	29,000,000	0
(2)70周年事業準備資金	1,950,000	1,300,000	650,000
(3)その他固定資産	147,828	197,103	△ 49,275
その他固定資産合計	31,097,828	30,497,103	600,725
固定資産合計	31,097,828	30,497,103	600,725
資産合計	36,550,096	38,622,821	△ 2,072,725
Ⅱ　負債の部			
1. 流動負債			
仮受金			0
前受金	75,000	60,000	15,000
預り金	16,074	18,174	△ 2,100
流動負債合計	91,074	78,174	12,900
負債合計	91,074	78,174	12,900
Ⅲ　正味財産の部			
1. 指定正味財産			0
2. 一般正味財産	36,459,022	38,544,647	△ 2,085,625
正味財産合計	36,459,022	38,544,647	△ 2,085,625
負債及び正味財産合計	36,550,096	38,622,821	△ 2,072,725

法　人　名：公益社団法人　一宮青年会議所

財産目録

2019年　12月 31日 現在

（単位：円）

科　　目	使　　用　　目　　的	金　　額		
Ⅰ　資産の部				
1. 流動資産				
現金	本会事業管理・運営の運転資金として		122,914	
預金				
三菱UFJ銀行一宮支店 普通預金	本会事業管理・運営の運転資金として	473,607		
いちい信用金庫一宮支店　普通預金	本会事業管理・運営の運転資金として	925,390		
尾西信用金庫本店営業部　普通預金	本会事業管理・運営の運転資金として	2,712,357	4,111,354	
前渡金				
京都会議事前登録料	地区・ブロック協議会における前渡額		8,000	
未収入金				
入会金　3名	本会事業管理・運営における未収額	90,000		
正会員会費　8名	本会事業管理・運営における未収額	840,000		
上期正会員年会費　3名	本会事業管理・運営における未収額	180,000	1,110,000	
立替金				
日本青年会議所　出向者5名	日本JC出向者負担金立替分		100,000	
流動資産合計				5,452,268
2. 固定資産				
(1)定期預金				
三菱UFJ銀行一宮支店 定期預金	公益目的保有財産であり、運用益を公益目的事業の財源として使	9,000,000		
いちい信用金庫一宮支店　定期預金	公益目的保有財産であり、運用益を公益目的事業の財源として使	10,000,000		
尾西信用金庫本店営業部　定期預金	公益目的保有財産であり、運用益を公益目的事業の財源として使	10,000,000	29,000,000	
(2)70周年事業準備資金				
三菱UFJ銀行一宮支店 定期預金		1,950,000	1,950,000	
(3)その他固定資産				
パソコン	本会事業管理・運営のため	1		
収納一式(南側)	本会事業管理・運営のため	78,891		
収納一式(東側)	本会事業管理・運営のため	68,936		
その他固定資産合計			147,828	
固定資産合計				31,097,828
資産合計				36,550,096
Ⅱ　負債の部				
1. 流動負債				
前受金				
LOM基本資料	本会事業管理・運営における前受額	75,000		
			75,000	
預り金				
源泉所得税及び住民税	本会事務局員のための預り額	16,074	16,074	
流動負債合計				91,074
2. 固定負債				
固定負債合計				0
負債合計				91,074
Ⅲ　正味財産				36,459,022

財務諸表に対する注記

1　重要な会計方針

（1）「公益法人会計基準」（平成16年10月14日　公益法人等の指導監督等に関する関係省庁 連絡会議申し合わせ）を採用している。

（2）消費税の会計処理等

税込処理を採用している。

（3）固定資産の減価償却の方法

工具器具備品の減価償却は、定率法を採用している。

2　固定資産の取得価額、減価償却累計額及び残高は次のとおりである。

（単位：円）

科目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
工具器具備品	1,117,095	969,267	147,828
合計	1,117,095	969,267	147,828

余剰金計算書(案)

自2019年1月1日　至2019年12月31日

本年度余剰金　36,459,022円

上記金額を下記の如く処分する。

次年度繰越金　36,459,022円

2020年1月7日

公益社団法人一宮青年会議所
理事長　西岡　信幸　殿

公益社団法人一宮青年会議所
監事　眞野　尚人　印

監事　山岡　大介　印

監査報告書

私たち監事は、平成31年1月1日から令和元年12月31日までの事業年度の事業報告書並びに貸借対照表、損益計算書（正味財産増減計算書のことをいい、正味財産増減計算書内訳表を含む。）、その附属明細書及び財産目録（以下、「財務諸表」という。）に関する監査をいたしました。また、併せて公益目的支出計画実施報告書に関する監査をいたしました。

監査意見

(1)事業報告の監査結果

事業報告は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認める。

(2)財務諸表の監査結果

財務諸表は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に示しているものと認めます。

２０１９年度財務諸表等適法性確認報告書

公益社団法人　一宮青年会議所

２０１９年度理事長　眞野　尚人殿

作成年月日　２０１９年１２月３１日

名古屋市熱田区大宝三丁目９番１０号

税理士法人　さくら

代表社員税理士　陣田裕司

当税理士法人は、公益社団法人一宮青年会議所の２０１９年１月１日から２０１９年１２月３１日に係る貸借対照表及び収支計算書並びにその付属明細書並びに財産目録、併せて、正味財産増減計算書について通常必要とされる財務諸表の適法性確認手続きを実施し、また当税理士法人が必要と認めたその他の確認手続きを実施しました。

この財務諸表等は依頼者が自ら起票した伝票に基づき、コンピュータ処理により作成した、仕訳帳、総勘定元帳、試算表、固定資産台帳等に基づき作成されております。

日々の取引に関する記録や領収書等はコンピュータ処理により整然と処理され、摘要も詳細に記載されており、疑義を挟む余地のない水準で処理されております。

記帳は事実に基づいて真実性、適時性、網羅性の要件を満たしたものであり適法に処理されていると認めます。